

旧中野刑務所正門について

旧中野刑務所正門について、区の取扱い方針検討の際の参考とするため、文化財としての価値等について、学識者からの意見聴取を行った。また、取扱いの方法別に概算見積を徴取したので、次のとおり報告する。

1 旧中野刑務所正門について学識者意見聴取結果(概要)

旧中野刑務所正門の文化財としての価値等について、中野区文化財登録・指定基準及び国・都の基準等を勘案し、指定の際に必要な項目別に学識者の意見聴取を行った。

意見聴取結果(概要)は「別紙1」のとおり。

2 保存等に係る概算経費

旧中野刑務所正門について、現地保存及び曳家、記録保存等の手法別に外観から見積もった概算見積について、区内にある文化財修復等を専門とする事業者から徴取した。

概算見積結果については「別紙2」のとおり。

3 区民等からの意見徴取に使用する資料

意見交換会及び区民と区長のタウンミーティングにあたり、使用を予定している資料は、以下の3点である。

- 「別紙1」学識者に対する意見聴取の結果報告(概要)
- 「別紙2」門の保存等に係る概算経費
- 「別紙3」平和の森小学校新校舎の配置イメージ

4 今後のスケジュール(予定)

平成30年(2018年)

10月14日 「旧中野刑務所正門について」意見交換会(区役所)

10月22日 区民と区長のタウンミーティング(新井区民活動センター)

テーマ:「旧中野刑務所正門」のあり方

平成30年第4回定例会 「旧中野刑務所正門」の取扱いに関する考え方について報告

(参考) 平和の森小学校新校舎整備について

2019年1月	基本構想・基本計画(案)とりまとめ
2019年3月末	基本構想・基本計画の策定
2019～2020年度	基本設計・実施設計
2021～2022年度	新築工事
2023年度	新校舎供用開始

学識者に対する意見聴取の結果報告（概要）

番号	評価項目※	コメント (学識者 1)	コメント (学識者 2)	コメント (学識者 3)
1	意匠	2種類の色彩のレンガをイギリス積みで積むことでデザイン効果を出している。北側部分の支え柱が斜めになっているのは、国指定の中にも無い。(写真1) 明治と大正のレンガ建築の違いを物語っている。	明治～大正期にかけての新たな表現形式としてのデザインが用いられている。自己性を表して建築をした最初のものと言える。	大正モダニズム建築の先駆者である後藤慶二の特色が発揮されており、大正モダニズムの先駆的存在である。
2	技術	レンガ技術の最も進んだ段階の典型的な化粧技術をj用いている。レンガ積上げの断面が半円形覆輪目地(ふくりんめじ)の技術は現在の日本では失われており、東京駅の復元の際に技術習得から行った。(写真2)	施工が丁寧で一体感があり、覆輪目地は優れた技術である。	鉄筋コンクリート導入期のレンガ建築は最終段階のものとして重要である。
3	歴史的価値	創建時の場所に建物が残されていることが歴史的価値として重要である。	門の建てられた場所が近代史の一端を示す場所であることが重要である。	旧豊多摩監獄の建物の中で唯一残されている正門の価値は計り知れない。中野区だけの遺産ではなく、日本の遺産と考えたほうが良い。
4	学術的価値	後藤慶二の設計した、現存唯一の建造物である価値は高い。	旧豊多摩監獄は建築史上、有名で専門書には必ず、採用されるものである。後藤慶二の現存する唯一の作品であり歴史性も高く、現地にある実物の持つ力がある。	後藤慶二の作品が少ないだけに学術的価値があり、残してもらいたい。大正期の建築物の見本ともいうべきもので、建築史上大切なものである。東京駅と同じ造りである。

5	流派的又は地方的特色	後藤慶二は早逝で寡作のため、代表作という言葉は使えず、流派的とは言えない。	地方的特色は認められない。	流派や地方性とは異なる建物である。
6	総括	東京都指定文化財になりえる。現地保存としない限り文化財価値は低下する。モニュメント、映像保存は文化財の見地からは検討対象にはならない。何れにしても映像保存を含めた調査資料は必要である。	大正期の建築物は少なく重要であることから、今後は更に注目されるはず。この門が昭和58年に残されたのは、そういった意味があると思われる。国の重要文化財になることを期待する。現地保存以外では文化財的価値は低下する。モニュメント、映像保存は文化財の見地からは検討対象にならない。映像保存は必要である。	東京都指定文化財になりえる。現地保存が一番良い。モニュメント、映像保存は文化財の見地からは検討対象にならない。何れにしても詳細調査をし、映像の保存など資料の収集・公開は必要である。

※評価項目は、国宝及び重要文化財（建造物）指定基準（第3次改正平成8年2月9日文部省告示第6号）に準拠

【参考】国宝及び重要文化財（建造物）指定基準

建築物、土木構造物及びその他の工作物のうち、次の各号の一に該当し、かつ、各時代又は類型の典型となるもの

- (1) 意匠的に優秀なもの
- (2) 技術的に優秀なもの
- (3) 歴史的価値の高いもの
- (4) 学術的価値の高いもの
- (5) 流派的又は地方的特色において顕著なもの

写真1：北側部分の斜めの支え柱



写真2：覆輪目地



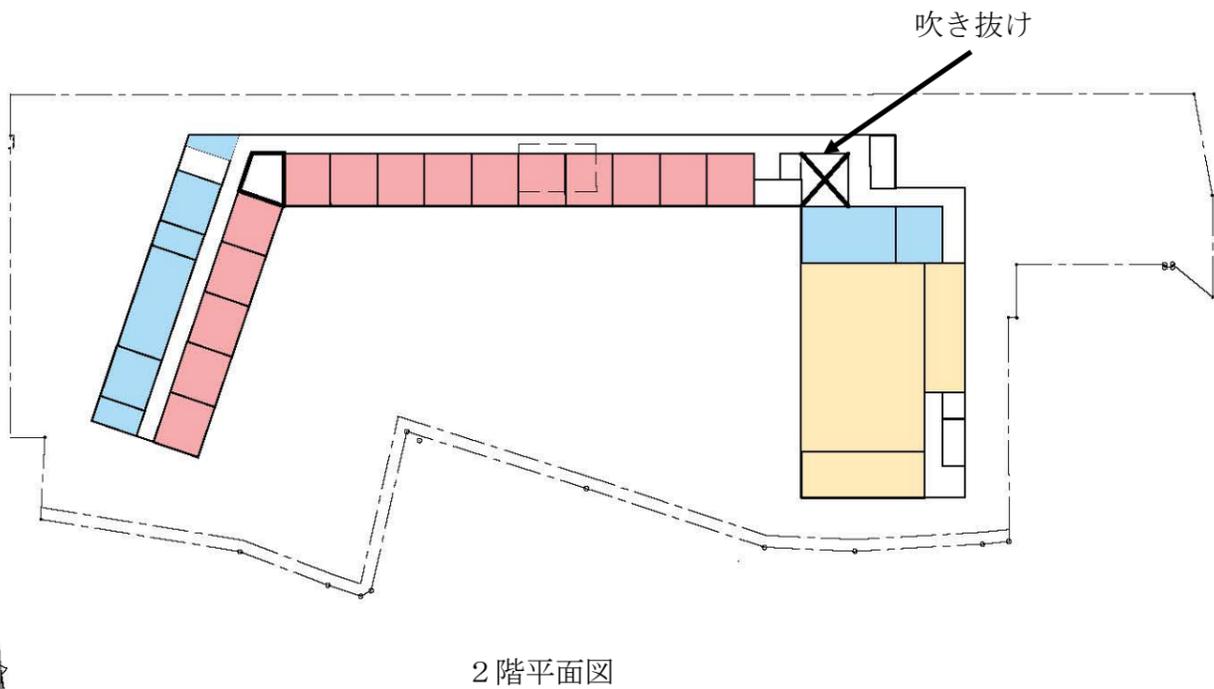
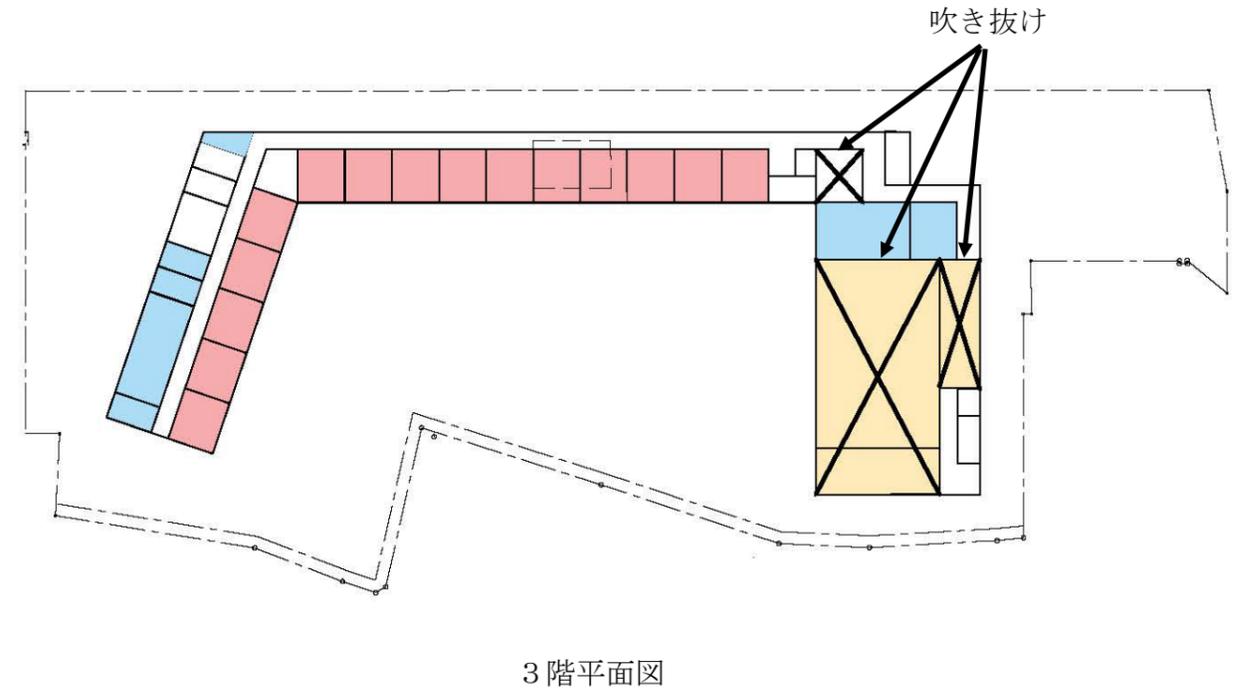
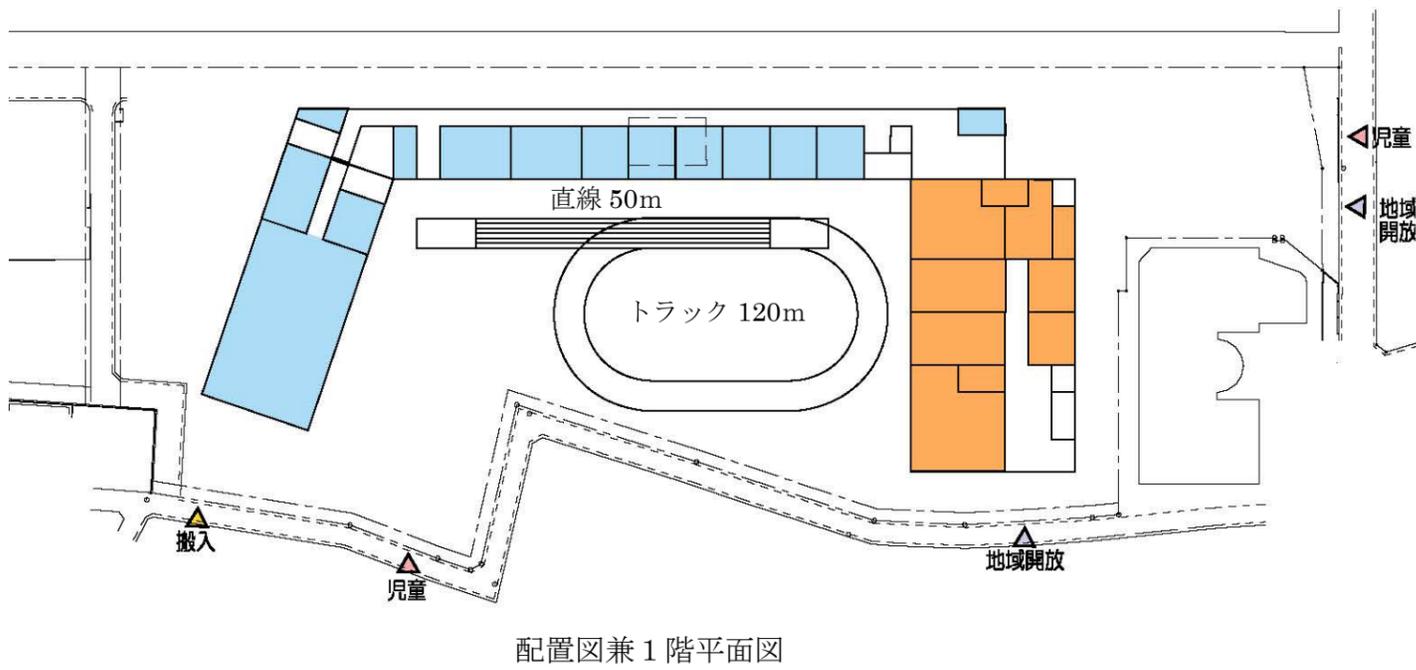
「旧中野刑務所正門」に使われている覆輪目地は、目地の断面が半円形で、中央部分を「かまぼこ」のように盛り上げることで、煉瓦の美しさを際立たせる効果を持つ日本独自の手法である。

門の保存等に係る概算経費（※）

（税別）

方法	調査	設計	工事・制作等	合計
①現地保存				
現地から動かすことなく、守衛室の1室に常設展示、もう1室をイベントに活用するなどして、内部への出入り可能な形で保存する。	500万円	1,600万円	2億1,000万円	2億3,100万円
②現地保存				
現地から動かすことなく、外観からの見学に限定する形で保存する。	300万円	600万円	7,600万円	8,500万円
③移築				
基礎部分を地中から水平に切断し、建物そのものをリフトアップした後、レールに乗せて水平移動して、移転場所にて、移動によるダメージの修復を行う。	500万円	3,300万円	4億2,300万円	4億6,100万円
④一部保存				
解体し、正面一面のみをスライスし、別の建物の壁面に貼り付ける形で保存する。高さ8.7m、横幅13.5m、奥行き2m程度を想定。	500万円	900万円	1億2,100万円	1億3,500万円
⑤記録				
解体し、記録映像、復原模型を作成し、公開できるようにする。	—	—	1,300万円	1,300万円

※文化財建造物、歴史的建造物の調査、修復設計、工事監理等を専門とする区内事業者による見積。
国登録有形文化財を含む多くの文化財で実績がある。



【特徴】

- 小学校として、児童・教職員が利用しやすい3階建ての校舎を整備することができる。
- 旧中野刑務所正門の見学スペース等を確保する必要がなくなるため、学校敷地を広く活用できる。
- 全ての普通教室を、採光を十分に確保できる南向き・東向きに配置することができるほか、校庭への視認性も確保できる。
- 職員室・校長室を、校庭への見渡しや防犯上の観点から適当である校庭に面した1階に配置することができる。
- 職員室や校長室、放送室の前面にトラックを確保できるなど、運動会等にも適した教育環境を整備することができる。

延床面積 合計：約9,860㎡
校庭面積 : 約4,000㎡

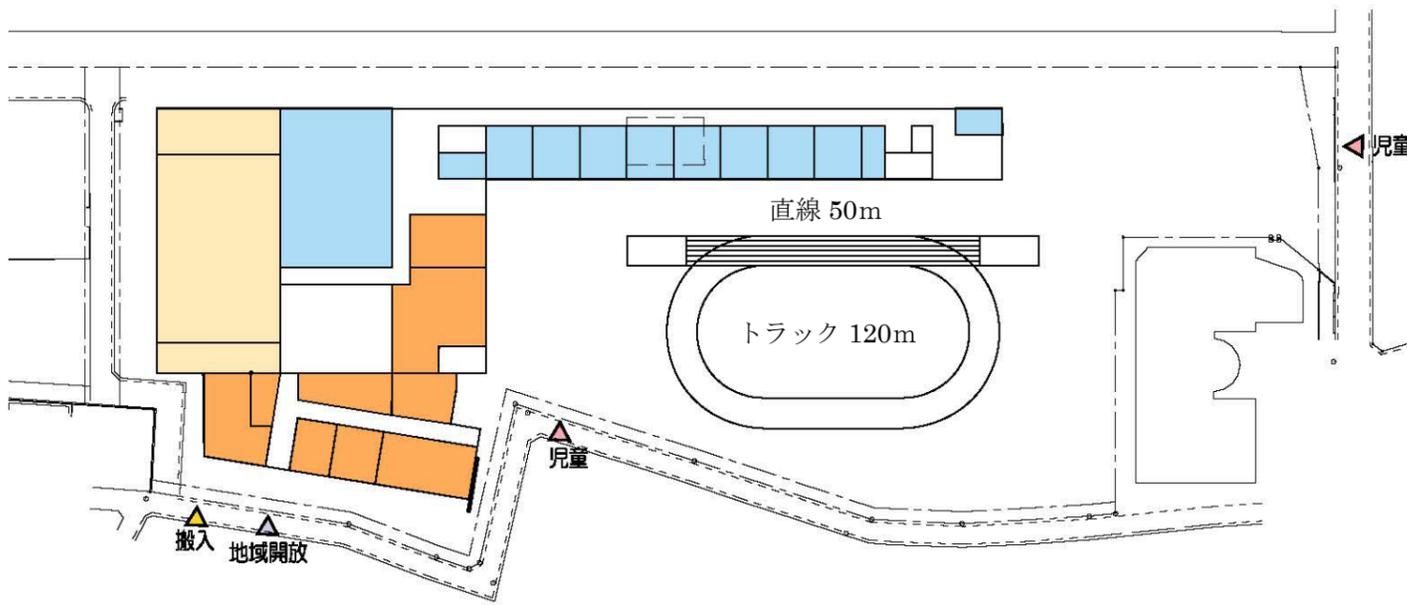


凡例

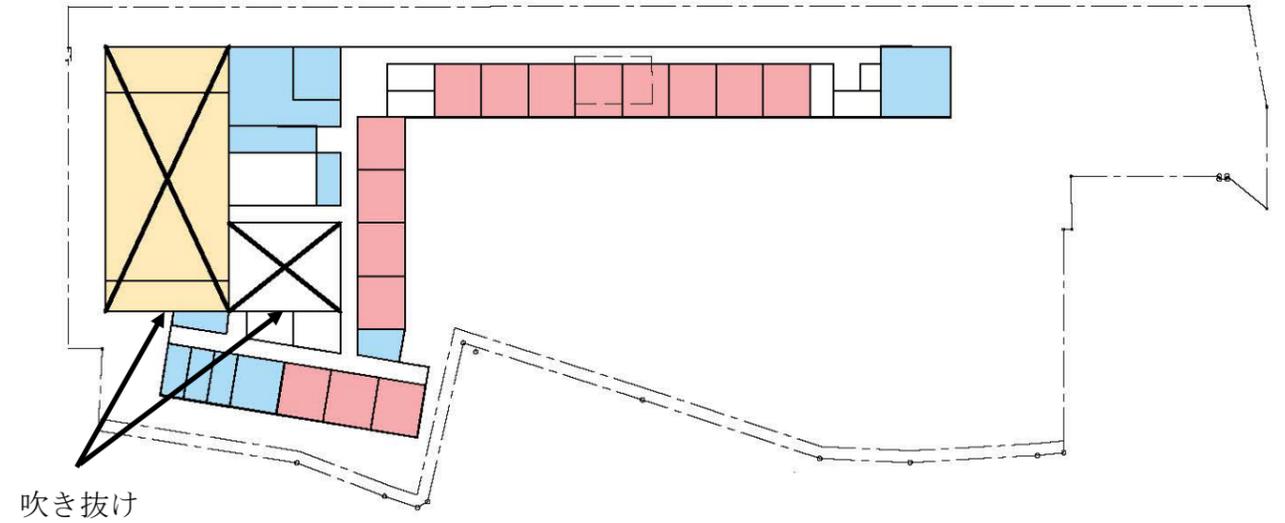
- 普通教室
- 開放エリア
- 廊下・共用部分
- 屋内運動場
- その他学校エリア

【平和の森小学校 新校舎整備にあたっての前提】

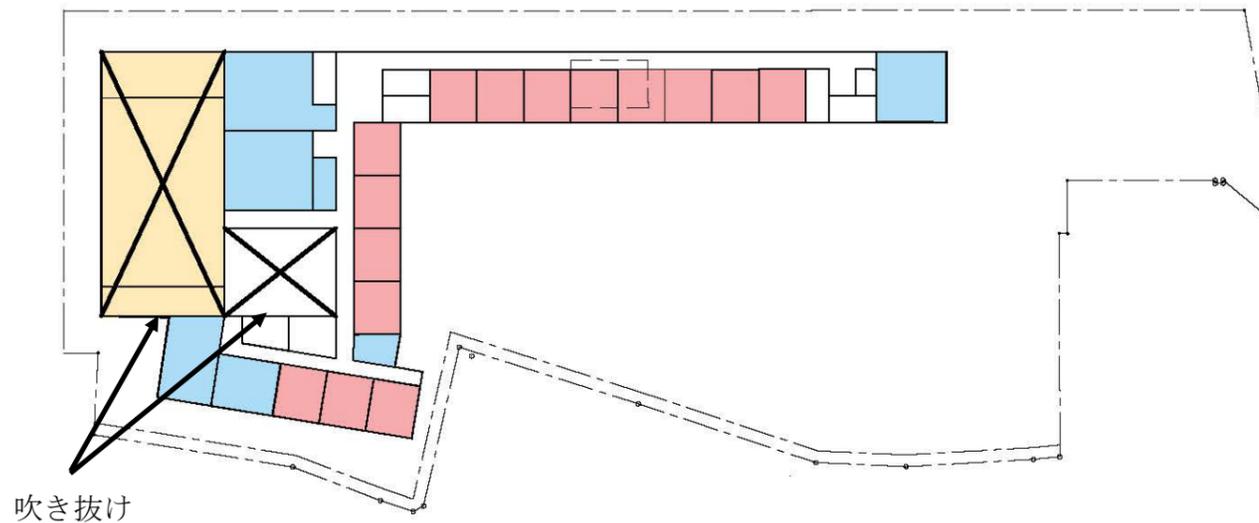
- 新校舎では800人程度の児童が通う、区内最大規模の小学校となるほか、新たに地域開放型学校図書館、キッズ・プラザが併設される。



配置図兼1階平面図



3階平面図



2階平面図

延床面積 合計：約9,860㎡
校庭面積 : 約4,500㎡



凡例

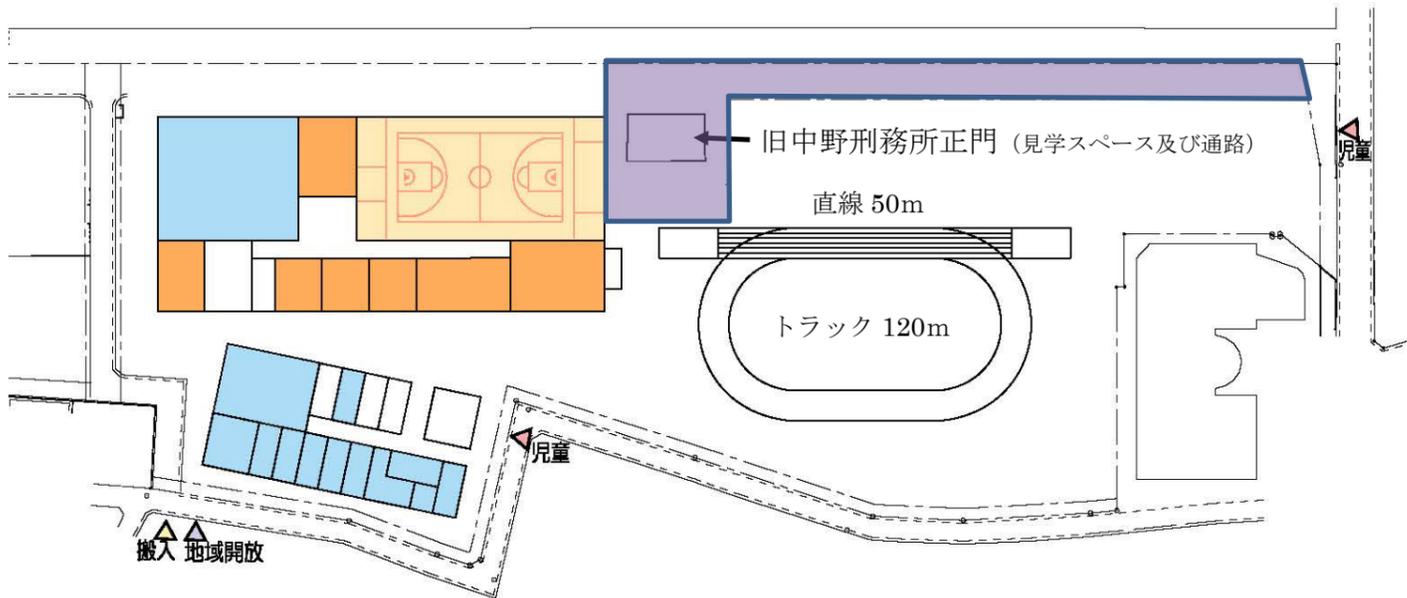
- 普通教室
- 開放エリア
- 廊下・共用部分
- 屋内運動場
- その他学校エリア

【特徴】

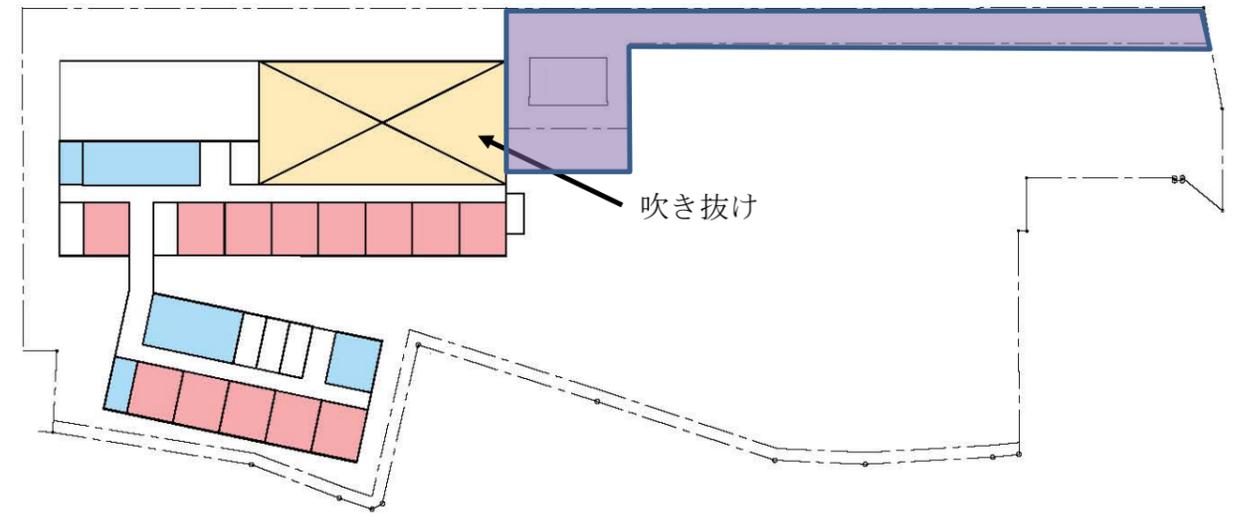
- 小学校として、児童・教職員が利用しやすい3階建ての校舎を整備することができる。
- 旧中野刑務所正門の見学スペース等を確保する必要がなくなるため、学校敷地を広く活用できる。
- 全ての普通教室を、採光を十分に確保できる南向き・東向きに配置することができるが、校庭への視認性がない教室も混在するなど、教育環境として均質でない。
- 職員室・校長室を、校庭への見渡しや防犯上の観点から適当である校庭に面した1階に配置することができる。
- 職員室や校長室、放送室の前面にトラックを確保できるなど、運動会等にも適した教育環境を整備することができる。

【平和の森小学校 新校舎整備にあたっての前提】

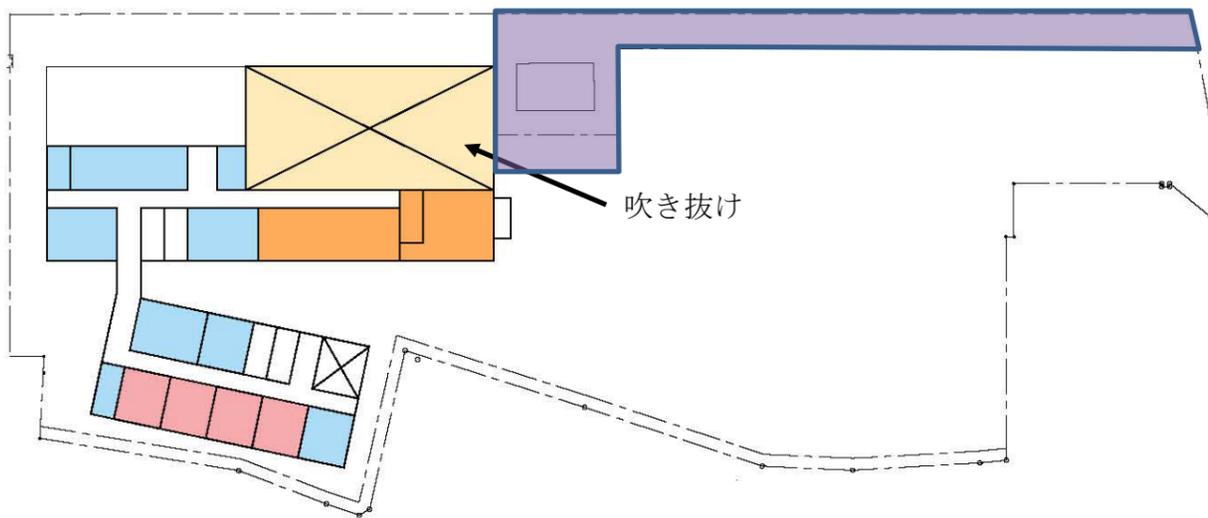
- 新校舎では800人程度の児童が通う、区内最大規模の小学校となるほか、新たに地域開放型学校図書館、キッズ・プラザが併設される。



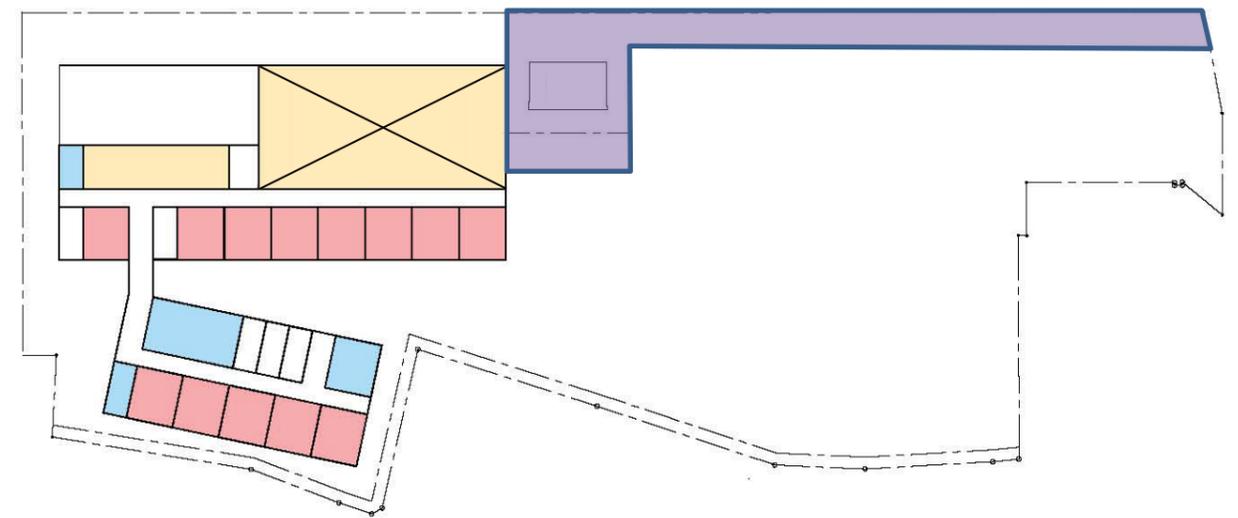
配置図兼1階平面図



3階平面図



2階平面図



4階平面図

【平和の森小学校 新校舎整備にあたっての前提】

- 新校舎では800人程度の児童が通う、区内最大規模の小学校となるほか、新たに地域開放型学校図書館、キッズ・プラザが併設される。
- 旧中野刑務所正門を学校予定地内に保存する場合には、門の周辺に見学スペース等の確保を想定。

【特徴】

- 旧中野刑務所正門の見学スペース等を確保したうえでの校舎整備となり、校庭を確保するために4階建ての校舎となる。
- 旧中野刑務所正門の見学スペース等を確保するため、学校敷地が狭くなる。
- 全ての普通教室を南向きに配置することができるが、校庭への視認性がない教室も混在するなど、均質な教育環境として整備することが難しい。
- 職員室・校長室を、校庭への見渡しや防犯上の観点に配慮した場所に配置することが難しい。
- 職員室や校長室、放送室の前面に校庭トラックを配置することができないなど、校舎・校庭の一体的活用が難しい。

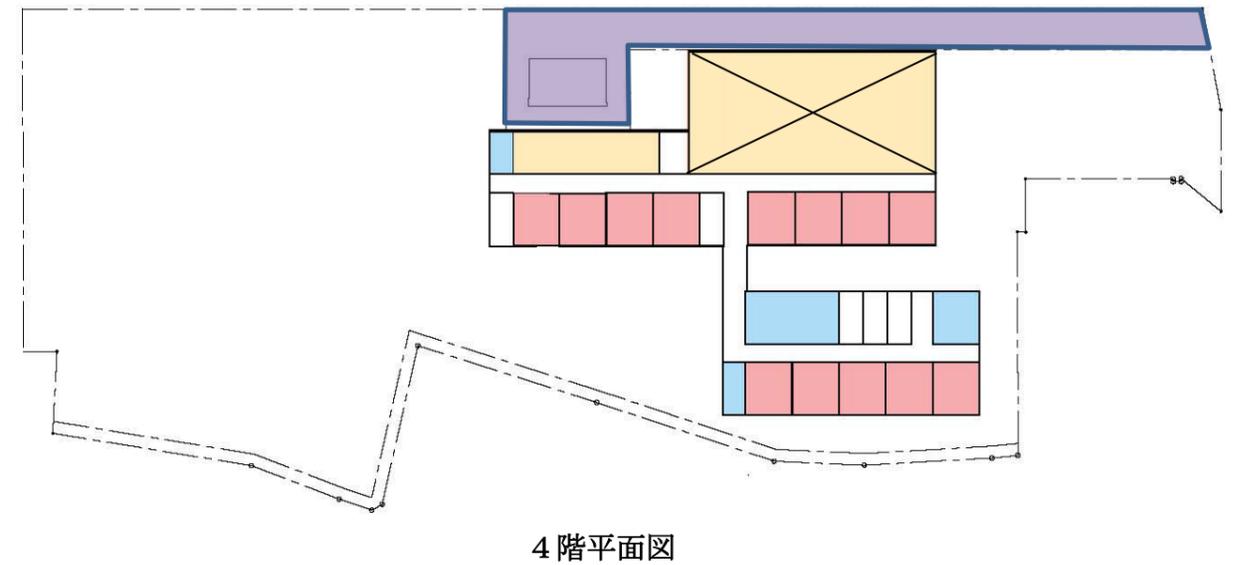
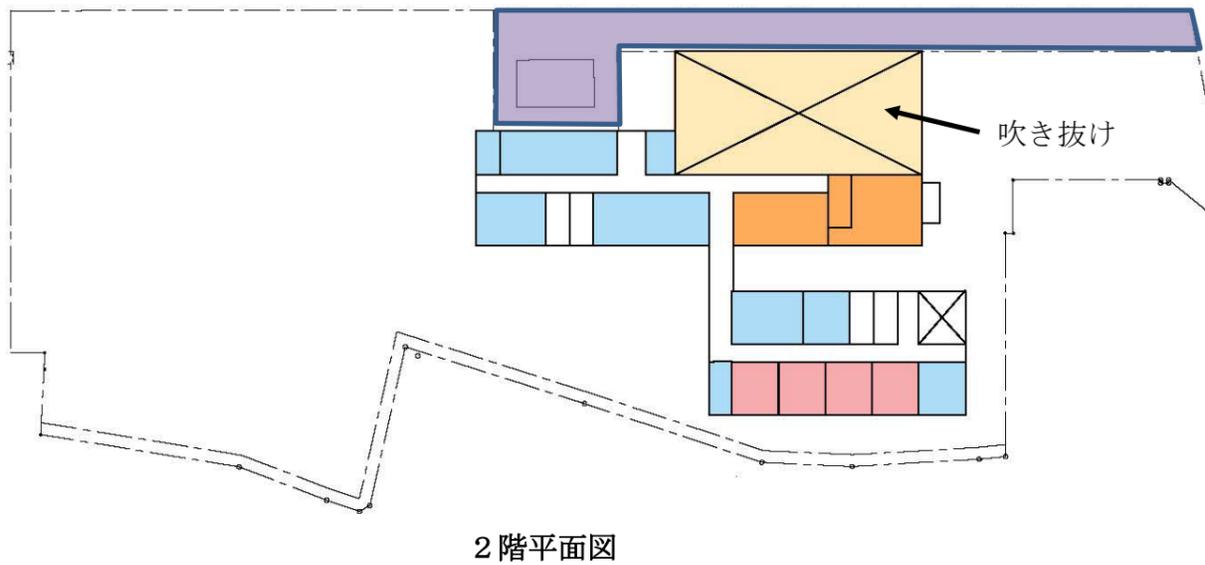
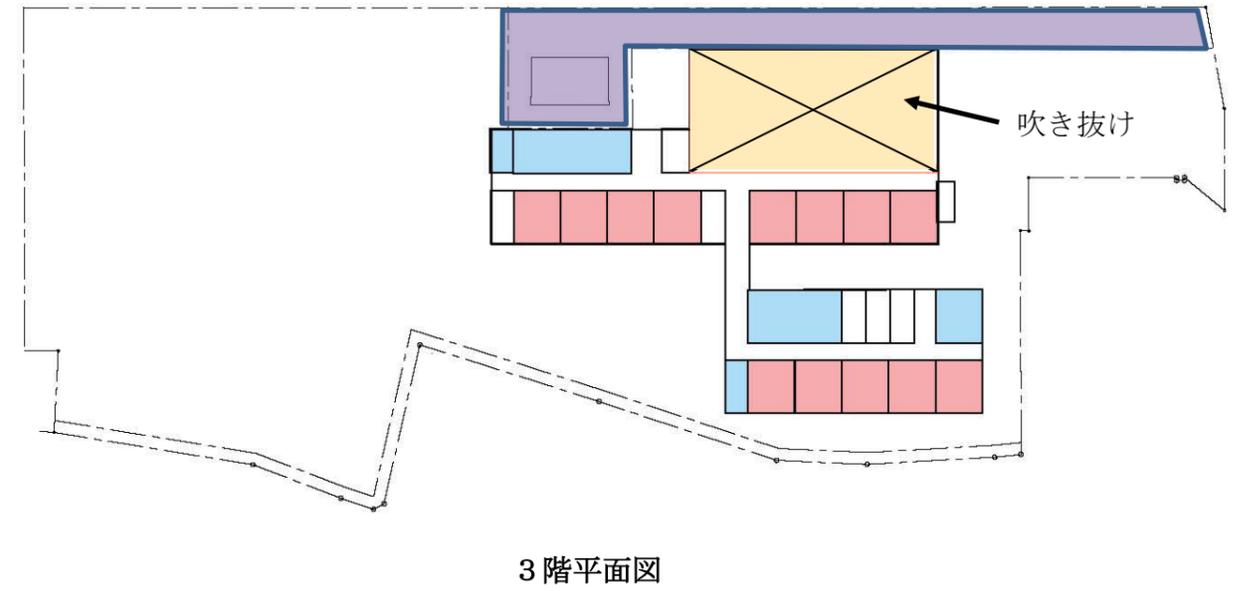
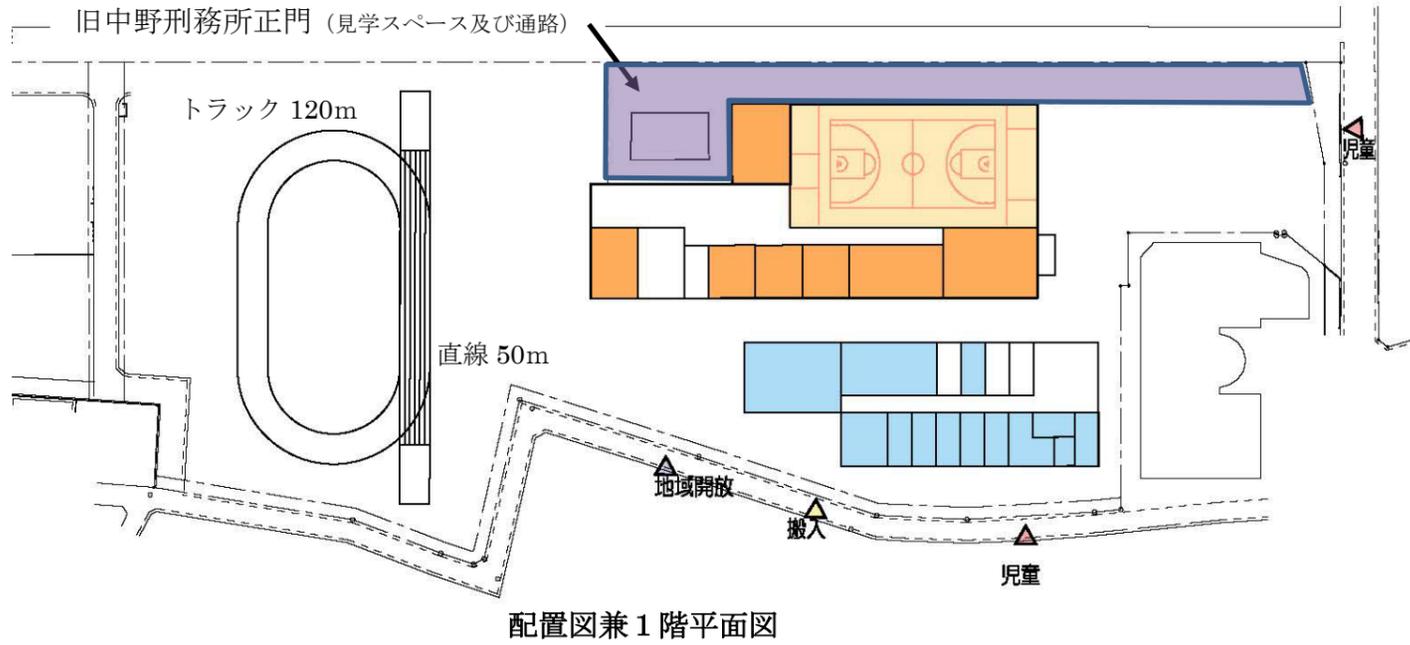


延床面積 合計：約9,686 m²
校庭面積 : 約4,400 m²

凡例

- 普通教室
- 開放エリア
- 廊下・共用部分
- 屋内運動場
- その他学校エリア

○旧中野刑務所正門を現地保存した場合の、平和の森小学校新校舎の配置イメージ②



【平和の森小学校 新校舎整備にあたっての前提】

- 新校舎では800人程度の児童が通う、区内最大規模の小学校となるほか、新たに地域開放型学校図書館、キッズ・プラザが併設される。
- 旧中野刑務所正門を学校予定地内に保存する場合には、門の周辺に見学スペース等の確保を想定。

【特徴】

- 旧中野刑務所正門の見学スペース等を確保したうえでの校舎整備となり、校庭を確保するために4階建ての校舎となる。
- 旧中野刑務所正門の見学スペース等を確保するため、学校敷地が狭くなる。
- 全ての普通教室を南向きに配置することができるが、校庭への視認性がない教室も混在するなど、均質な教育環境として整備することが難しい。
- 職員室・校長室を、校庭への見渡しや防犯上の観点に配慮した場所に配置することが難しい。
- 職員室や校長室、放送室の前面に校庭トラックを配置することができないなど、校舎・校庭の一体的活用が難しい。

